令和 8 年 10 月 1 日

2026 年 10 月における評価方法の変更等の概要

■ 評価方法の変更について

評価方法を次の通り変更しました。

＜全般＞

1. 主たる居室の床面積、その他の居室の床面積および非居室の床面積について、端数の扱いを明記しました。当該の変更に関して、次の技術資料等を公開しました。
    - 技術情報の第一章「概要と用語の定義」

＜外皮＞

2. ガラスの仕様および付属部材の種類に応じたガラスの垂直面日射熱取得率の値について、住宅と非住宅で評価内容が統一されました。当該の変更に関して、次の技術資料等を公開しました。
    - 技術情報の第三章「暖冷房負荷と外皮性能」第一節「全般」
    - 技術情報の第三章「暖冷房負荷と外皮性能」第四節「日射熱取得率」

3. 日射制御を目的とした付属部材について、季節（冷房期／暖房期）に応じて切り替え可能な評価方法へ変更されました。当該の変更に関して、次の技術資料等を公開しました。なお、当該変更の前後で評価結果が変わる場合があります。評価対象となる付属部材は、従前と定義の変更はありません。
    - 技術情報の第三章「暖冷房負荷と外皮性能」第四節「日射熱取得率」

4. ダブルスキンおよびエアフローウィンドウが評価対象として追加されました。これに伴い、ダブルスキン及びエアフローウィンドウの熱貫流率と日射熱取得率の算定方法について、次の技術資料等を公開しました。

- 技術情報の第三章「暖冷房負荷と外皮性能」第三節「熱貫流率及び線熱貫流率」
- 技術情報の第三章「暖冷房負荷と外皮性能」第四節「日射熱取得率」

＜暖冷房設備＞

5. 主たる居室もしくはその他の居室に暖房設備機器等／冷房設備を設置しない場合について、ルームエアコンディショナーを将来的に設置することが確認できる場合の評価の考え方が新たに追加されました。当該の変更に関して、次の技術資料等を公開しました。
    - 技術情報の第四章「暖冷房設備」第一節「全般」
    - 主たる居室もしくはその他の居室に暖房設備機器等／冷房設備を設置しない場合について、ルームエアコンディショナーを将来的に設置することが確認できる場合の評価の考え方が新たに追加されました。当該の変更に関して、次の技術資料等を公開しました。
    - 技術情報の第四章「暖冷房設備」第一節「全般」

6. 「低出力モード電気ヒーター床暖房試験及び評価手順書（一般社団法人　日本電気床暖房工業会）」の制定に伴い、低出力モードを搭載している電気ヒーター床暖房の確認方法に係る参照先を上記の評価手順書に変更しました。当該の変更に関して、次の技術資料等を公開しました。
    - 技術情報の第四章「暖冷房設備」第五節「電気ヒーター床暖房」

＜給湯設備＞

7. JRA　4090　：　2025「家庭用ヒートポンプ給湯機のエネルギー消費量計算に用いる性能仕様の測定方法」の制定に伴い、引用規格および本文中の参照を追加しました。また、表記が変更された用語について、記載を変更しました。当該の変更に関して、次の技術資料等を公開しました。
    - 技術情報の第七章「給湯設備」第一節「全般」
    - 技術情報の第七章「給湯設備」第四節「電気ヒートポンプ給湯機」

＜自然エネルギー利用設備＞

8. 令和５年３月の電気事業法及び関係法令の改正に伴い、「小出力発電設備」の名称変更を反映し、記載を変更しました。当該の変更に関して、次の技術資料等を公開しました。

- 技術情報の第一章「概要と用語の定義」
- 技術情報の第九章「自然エネルギー利用設備」第一節「太陽光発電設備」

■ **上記以外の修正等について**

技術情報等を次の通り修正しました。

＜全般＞

9. 標準住戸の定義に関する記述内容について、現行の評価方法との整合を図るため、見直しました。当該の修正に関して、次の技術資料等を公開しました。なお、本修正は記述の適正化を目的としたものであり、評価方法そのものの変更を伴うものではありません。
    - 技術情報の第一章「概要と用語の定義」

＜外皮＞

10. 開口部等の上方の日よけ（オーバーハング）が傾斜し、当該日よけの部位の先端が開口部等の見付けにかかる場合の取得日射熱補正係数の算出について、技術情報の構成及び記載を見直しました。当該の修正に関して、次の技術資料等を公開しました。なお、当該前後で評価結果は変わりません。
    - 技術情報の第三章「暖冷房負荷と外皮性能」第四節「日射熱取得率」

＜給湯設備＞

11. 給湯使用および入浴に関するスケジュールのうち、居住人数 1 人における浴槽入浴人数（生活スケジュール：休日外出）に不備があったため、これを修正しました。当該の修正に関して、次の技術資料等を公開しました。なお、当該前後で評価結果は変わりません。
    - 技術情報の第七章「給湯設備」第一節「全般」

以　上

※「技術情報」とは、国立研究開発法人 建築研究所が公開する「平成 28 年省エネルギー基準に準拠したエネルギー消費性能の評価に関する技術情報（住宅）現行版」です。
「資料」、「Excel ツール」および「WEB アプリ」とは、WEB サイト「住宅に関する省エネルギー基準に準拠したプログラム」において公開する入力補助ツール・補足資料です。

エネルギー消費性能計算プログラム（Ver.3.11.0）における更新の内容

現行バージョン（Ver.3.10.0）からの変更点は、次の通りです。

● 令和 8 年 10 月 1 日 ●

＜暖房＞

1. 1 地域または 2 地域で以下の「暖房設備機器または放熱器の種類」を選択し、給湯設備の「熱源機の種類」で「電気ヒートポンプ・ガス瞬間式併用型給湯温水暖房機（暖房部：電気ヒートポンプ・ガス ｜ 給湯部：電気ヒートポンプ・ガス）」を選択した場合、計算時にエラーが発生する不備を修正しました。併せて、「暖房方式」で「設置しない」を選択した場合における同様の不備も修正しました。
   - その他の暖房設備機器
   - 基準値の算定において想定される機器（増改築部分を対象に評価する場合の基準設定仕様）
   - 暖房設備機器または放熱器を設置しない

＜給湯＞

2. 「熱源機の種類」で「電気ヒートポンプ給湯機（CO2 冷媒または R32 冷媒）（太陽熱利用設備を使用しないもの）」を指定した場合の評価において、JRA4090 の規格制定に伴い「電気ヒートポンプ給湯機の指定」で「品番を指定しない（パラメータを入力する）」を選択した場合のパラメータ項目名から「試験時の」を削除しました。また、「ヒートポンプ消費電力を求める回帰式」の単位が「kW/℃」から「kW/K」に変更しました。
3. 「熱源機の種類」で「電気ヒートポンプ・ガス瞬間式併用型給湯温水暖房機（暖房部：電気ヒートポンプ・ガス ｜ 給湯部：ガス ｜ 貯湯タンク：あり）」を指定した XML ファイルを読み込んだ場合、「ふろ機能の種類」に関する不要な警告が表示されていたため削除しました。
4. 居住人数 1 人における浴槽入浴人数（休日外出）の修正に合わせて、プログラム内部の値を 1 から 0 に変更しました。

以上

住宅・住戸の外皮性能計算プログラム（Ver.3.11.0）における更新の内容

現行バージョン（Ver.3.10.0）からの変更点は、次の通りです。

●令和 8 年 10 月 1 日●

＜住宅・住戸の外皮性能の計算プログラム Web アプリケーション＞

1. 窓の日射熱取得率の計算に使用する付属部材を冷房期と暖房期で分けて入力するように変更しました。また、直接入力の日射熱取得率についても冷房期と暖房期で分けて入力するように変更しました。入力された値に応じた計算が行われます。

2. 窓の日射熱取得率の計算に使用する付属部材の選択肢について以下の通り変更しました。名称を変更した選択肢については従前の計算結果から変更はありません。

   - 「なし」を「設置しない、又は評価しない」に変更
   - 「外付けブラインド」を「外付けの日射遮蔽部材」に変更
   - 「内付けの日射遮蔽部材」を追加

3. 窓の「ガラスの仕様」の選択肢のうち、「二層複層ガラス又は真空ガラス」と「単板ガラス 2 枚を組み合わせたもの」を統合し、「二層複層ガラス、真空ガラス又は単板ガラス 2 枚を組み合わせたもの」に変更しました。計算結果の変更はありません。

4. 窓の日射熱取得率を計算する場合において、「枠の影響の有無」を必須入力としました。

5. 窓の取得日射熱補正係数の簡易法において、日よけの部位の先端が開口部等の見付けにかかる場合について対応しました。日よけの先端位置から開口部等面に垂直に下ろした位置から開口部等の下端までの垂直方向の距離（y'2）が追加され、y'2 に応じた計算ができるようになりました。

6. 窓シートにおいて、日射熱取得率の計算に使用する付属部材の入力列を冷房期と暖房期に分割しました。また、直接入力の日射熱取得率についても冷房期と暖房期に分割しました。

7. 窓シートにおいて、窓の日射熱取得率の計算に使用する付属部材の選択肢について以下の通り変更しました。

- 「なし」を「設置しない、又は評価しない」に変更
- 「外付けブラインド」を「外付けの日射遮蔽部材」に変更
- 「内付けの日射遮蔽部材」を追加

8. 窓シートにおいて、「ガラスの仕様」の選択肢のうち、「二層複層ガラス又は真空ガラス」と「単板ガラス 2 枚を組み合わせたもの」を統合し、「二層複層ガラス、真空ガラス又は単板ガラス 2 枚を組み合わせたもの」に変更しました。

9. 窓シートにおいて、取得日射熱補正係数の簡易法の項目に、日よけの先端位置から開口部等面に垂直に下ろした位置から開口部等の下端までの垂直方向の距離(y'2)を追加しました。

以上

共同住宅等の計算結果集計プログラム（Ver.3.11.0）における更新の内容

現行バージョン（Ver.3.10.0）からの変更点は、次の通りです。

● 令和 8 年 10 月 1 日 ●

1. 住戸部分の計算結果 PDF ファイルのアップロードにおいて、エネルギー消費性能計算プログラム（住宅版）から出力された PDF ファイル 1 枚目の左下に QR コードが出力されていないファイルについてもアップロード可能となりました。
2. 共用部分でアップロードした PDF ファイルの計算結果と集計後の共用部分の一次エネルギー消費量が、ごくまれに 0.2GJ/年程度ずれる問題を修正しました。

以上

日よけ効果係数算出ツール（Ver.3.11.0）における更新の内容

Ver.3.10.0 からの変更点はありません。

以上

土間床等の外周部の線熱貫流率の算出プログラム（Ver.3.11.0）における更新の内容

Ver.3.10.0 からの変更点はありません。

以上

ダブルスキン・エアフローウィンドウの外皮性能計算ツール（Ver.3.11.0）の公開

●令和 8 年 10 月 1 日●

1.　ダブルスキンおよびエアフローウィンドウの外皮性能（熱貫流率および日射熱取得率）を算出するための補助ツールを新たに公開しました。

以上